一箱（如普通八葉車、檐袖并屋形内簀子也、召之、但長物見内外、畫圖無之、金物、綱前、）

一箱内（無障子并畫圖、皆黑漆、物見上連子、彩色如例、）

〔輿車圖考九〕傍建（桙立）

くるまの前後の口の左右にある木にて、手形あるものなり、

桙立手形

〔侍中群要八〕御書使事

蒙召參御前、即下給御書罷出、（略中）至陽明門乘車（御書、插車前桙立穴、若無自車者、直乘在門之車、不必觸其主歟、殿上外記史等車也、）

〔雅亮裝束抄一〕くるまのきぬをいだすこと

きぬのいづることは、くるまのほうだてのかみ、二三寸ばかりよりはじめて、ひきいだして、（略下）

〔玉海〕治承五年（元養和年）十二月五日丁未、御入棺（后崇德聖子）事、（略中）召季長基輔、相共以布（六丈）縢御棺、（略中）

凡上下方共有布餘、爲結付車桙立也、

〔源平盛衰記三十三〕光隆卿向木曾許附木曾院參頑事

木曾（義仲）車ニユガミ乘タル形勢ヲカシナドハ云許ナシ、（略中）牛童車ヲ門外ニ遣出テ、後レテ一楷アテタレバ、飼立タル强牛ノ逸物也、何ノ滯カ有ベキナレバ、如飛走ル、木曾車ノ内ニ却樣ニマロブ、（略中）牛飼今ハ中直セント思テ、ソレニ候、御手形ニ取付セ給ヘト教ヘケレバ、イヅクヲ手形トモ不知ゲニ、見エケル時ニ、其ニ候、方立ノ穴ニ取付セ給ヘト云時、初テ取付テ、アハレ支度ヤ、是ハ和牛小デイガ支度カ、又主ノ殿ノ構カトゾ問タリケル、

〔承久記上〕同（建保七年正月）廿七日、鎌倉ノ八幡宮ニテ拜賀アルベシトテ、（略中）若宮ヘ著カセ給ヒテ、（源實朝）車ヨリオリサセ給ケルガ、細太刀ノ柄ノ、車ノ手形ニ入タリケルヲ知ラセ給ハデ、打ヲラセ給ヒヌ、

〔輿車圖考九〕高欄

高欄